

必読！

これだけは知っておきましょう。

マークIIとともに、
より安全・快適なカーライフを
お楽しみいただくために——

これだけは知っておきましょう。

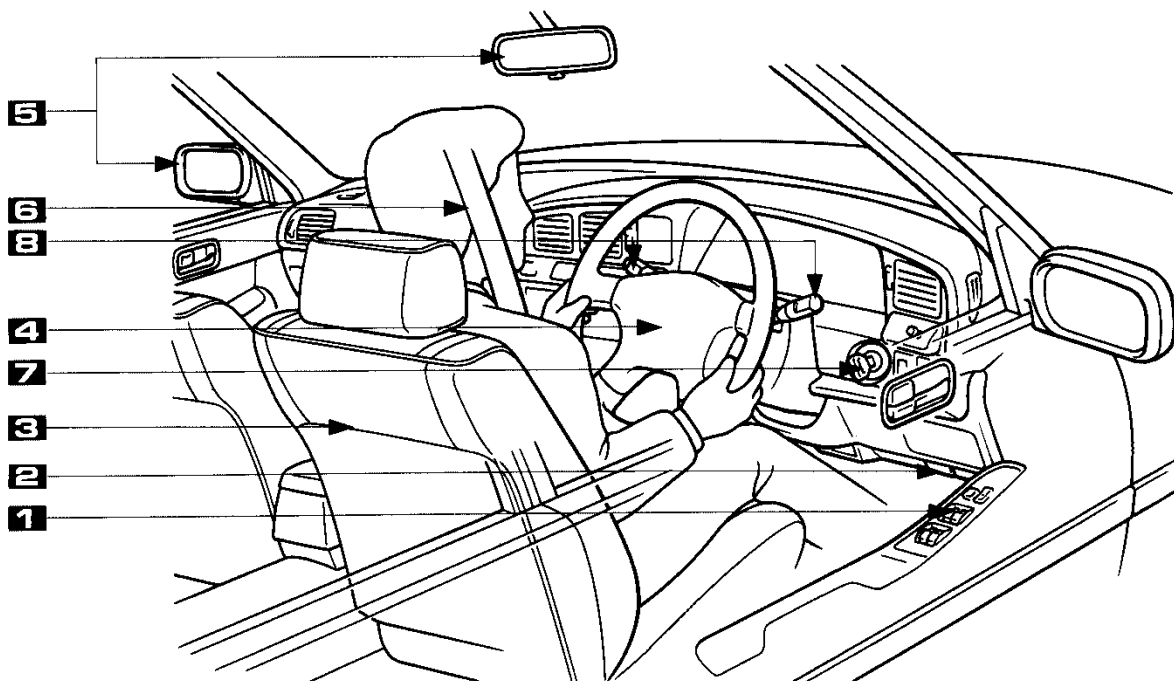
ドライバーとしてこれだけは知っておいていただきたい項目を
以下の必読ページにまとめてあります。

安全・快適なカーライフをお楽しみいただくため、
ぜひお読みください。

マークⅡの基本操作要領

(詳しくは、本文をご参照ください。)

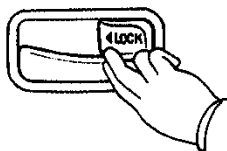
まずは、あなたの指定席「ドライバー・シート」に腰をおろして…



1 ドア、ウインドウ(24ページ)

走行中は必ずドアをロックしましょう。

また、LG、GRサルーン、GR、タクシー(高級パック)のウインドウは各ドアのスイッチ操作で開閉できるパワー・ウインドウです。



走行中は必ずドアをロックしましょう。

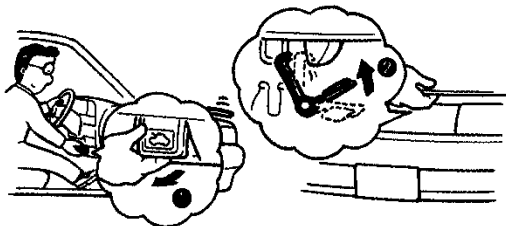


お子さまを乗せたときはLOCKにしましょう。

2 ボンネット(28ページ)

ボンネットの開け方は

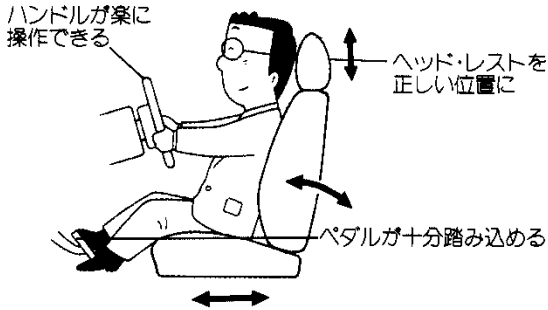
- ①計器盤右下のレバーを引く。
- ②ボンネット・ロックをはずす。



必読！

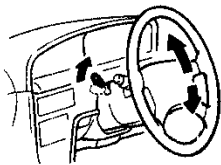
3 シート調整(31ページ)

- ①ペダルが十分踏み込める。
- ②ハンドルが楽に操作できる。
- ③ヘッド・レストが耳の後方になるように、走行前に調節してください。



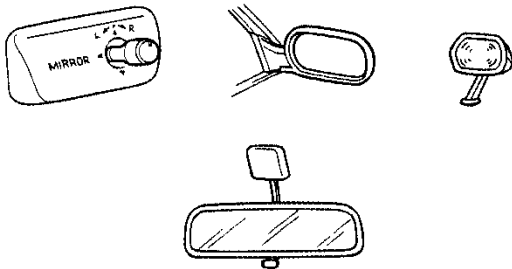
4 ハンドル位置調整(37ページ)

ハンドルは、角度調整ができます。走行前にハンドル操作がもっとも楽な位置に調整してください。



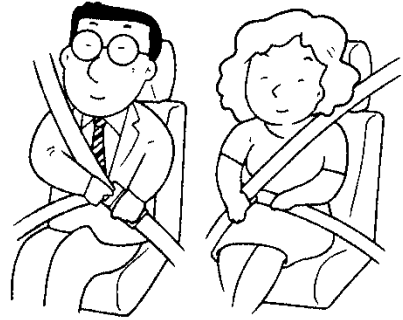
5 ミラー調整(38ページ)

走行前に、後方、左右がもっとも確認しやすい角度に調整してください。



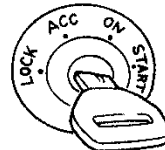
6 シート・ベルト(34ページ)

シート・ベルトは必ず装着してください。装着のときは、腰部ベルトを必ず腰骨の位置に装着してください。妊婦、疾患のあるかたおよびお子さまの装着は危険な場合があります。

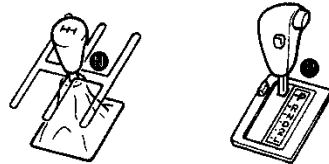


7 エンジン始動(41ページ)

エンジン・スイッチの各位置は図のとおりです。



- ①エンジンを始動する前に必ずブレーキ・ペダルを踏むか、パーキング(駐車)・ブレーキをかける。パーキング(駐車)・ブレーキには足踏み式もあります。☞44ページを参照してください。
- ②マニュアル・トランスミッション車は①(中立)、オートマチック・トランスミッション車は②(駐車)にはいつていることを確認してください。



8 ライト、ワイパー・スイッチ(47ページ)

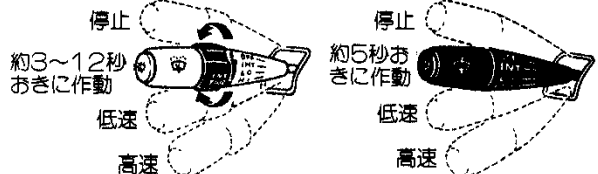
ライト・スイッチ

消灯 車幅灯 ヘッドランプ



ワイパー・スイッチ
時間調整式

間けつ式

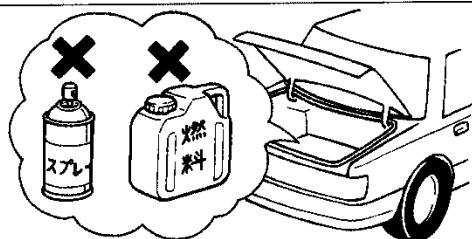


「準備よし!」までの

Checkpoint

積んでいませんか?

危険物は持ち込み禁止です。

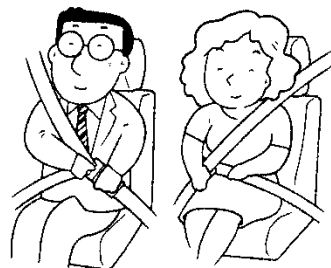


車内およびトランク内に燃料がはいった容器やスプレー缶を持ち込まないでください。

蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

忘れていませんか?

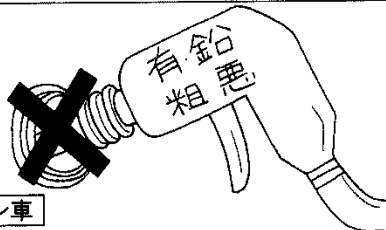
シート・ベルトは必着です。



正しい装着方法はP34ページを参照してください。

いれていませんか?

有鉛ガソリン、粗悪ガソリンお断りです。



ガソリン車

ガソリンの補給は、必ず無鉛ガソリンにしてください。有鉛ガソリンやトヨタ純正品以外のガソリン添加剤を使用すると、触媒装置を損ないます。

また、粗悪ガソリンを使用すると、エンジン各部に悪影響をあたえますので注意してください。

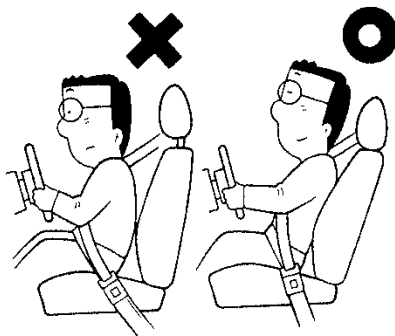
ディーゼル車

必ず軽油を補給してください。

LPG車

LPガスを補給してください。LPガスの充てんはスタンドの係員にまかせてください。LPガスの充てんについてはP99ページを参照してください。

ヘッド・レストは高すぎず、低すぎず、頭との間はあけすぎず。

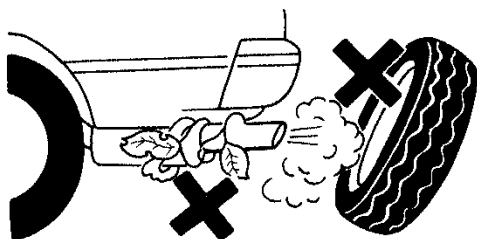


「エンジン始動、さあ出発！」までの

Check Point

確認しましたか？

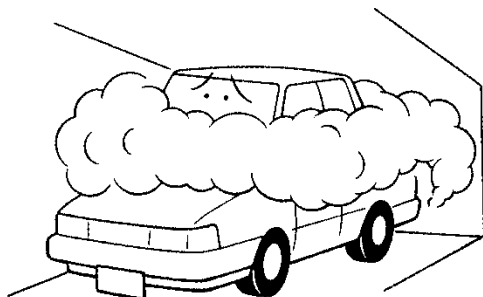
車両後方、排気管にからんだ可燃物は危険です。



始動前に車両後方に燃えやすいものがないか、排気管に枯れ草などが巻きついていないか確かめてください。

危険はありませんか？

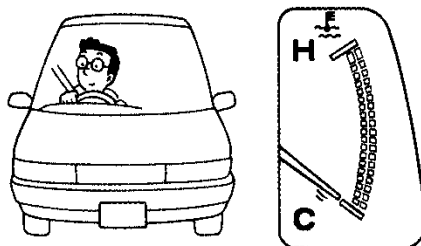
密閉した車庫内でエンジンをかけたままにしない。



ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、必ず換気をよくしてください。

暖機は適切ですか？

水温計の指針が動き出す程度で十分です。



長すぎると燃料のムダになります。



暖機運転中はもちろん、エンジンが回っているときは車から離れないでください。

運転席の足元はすっきりと！

運転席付近に物を置くと危険です。フロア・マットは正しく敷いてください。



フロアに物がこころがってブレーキ・ペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなるなど危険です。また、フロア・マットがアクセル・ペダルに引っかからないように注意してください。

必読！

「安全・快適走行」のための

Check Point

こんなときは要注意！

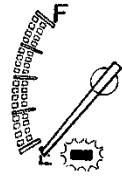
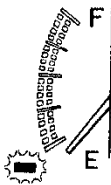
次のような警告灯、計器の警告を無視して運転を続けると、触媒装置を焼損するおそれがあります。

排気温警告灯または充電警告灯が点灯したら、安全な場所へ停止。



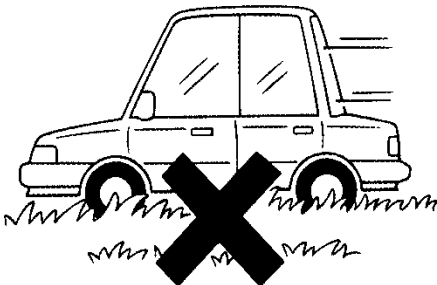
触媒装置の温度が異常に高くなっています。必ず54ページを参照して、点灯時の処置を行ってください。〈ガソリン車、LPG車〉

燃料計がE以下になる前に補給。



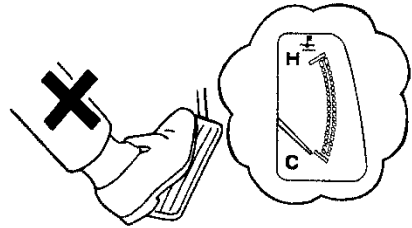
走らないで！

枯れ草、紙くずなど燃えやすいものの上は走行拒否。



あおらないで！

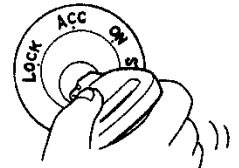
暖機不足の発進時、極端にアクセル・ペダルをあおらないでください。



未燃焼ガスが触媒装置に流れ、触媒装置を焼損するおそれがあります。〈ガソリン車、LPG車〉

切らないで！

走行中はもちろん、高回転直後でもエンジン・スイッチを切らないでください。



1. 触媒装置を焼損するおそれがあります。〈ガソリン車、LPG車〉
2. 走行中エンジン・スイッチをACCまたはLOCKの位置にすると、
 - ブレーキの効きが悪くなります。
 - パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が作用しないため、ハンドル操作が非常に重くなります。
 - LOCK位置にするとキーが抜けることがあり、キーが抜けるとハンドルがきれなくなり危険です。
 - 各種警告灯が作用しなくなり危険です。

オートマチック車の正しい運転のしかた

(45ページの「オートマチック・トランスミッション」もあわせてお読みください。)

オートマチック車は、クラッチとギヤ・チェンジの操作を自動化したもので、その分運転が楽になります。しかし、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性をよく理解し、正しく操作する習慣をつけてください。



オートマチック車の特性

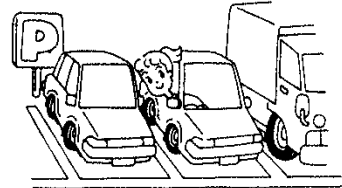
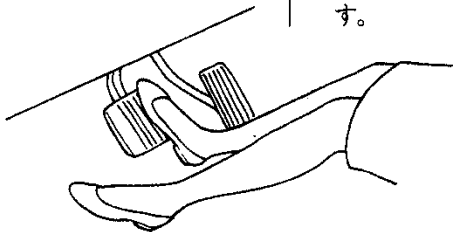
クリーブ現象

エンジンがかかっているとき、チェンジ・レバーが①②以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセル・ペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出す現象をいいます。

● 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキ・ペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキング（駐車）・ブレーキをかけてください。

● エンジン始動時やエアコン作動時などに、自動的にエンジンの回転が上がるアイドル・アップ時には、クリーブ現象が強くなるため、ブレーキ・ペダルをよりしっかりと踏むことが必要です。

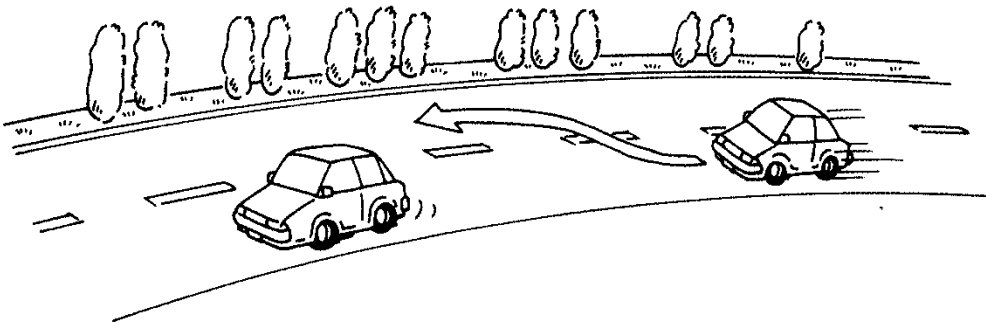
● 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセル・ペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節するとスムーズに行えます。



キックダウン

走行中にアクセル・ペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

● 追いこし時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。



必読！

運転のしかた

エンジンをかける前に

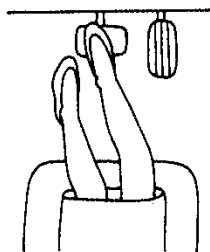
1 正しい運転姿勢をとる。

ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

2 アクセル・ペダルの位置を確認。

3 ブレーキ・ペダルの位置を右足で確認。

踏み間違いを防ぐため、アクセル・ペダルとブレーキ・ペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。



エンジン始動

詳しくは41ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

1 パーキング(駐車)・ブレーキを確認。

2 Pの位置を目で確認。

●の位置でも始動できますが、安全のため車輪が固定される●の位置で行ってください。

3 エンジン始動。

4 ブレーキ・ペダルを右足で踏む。

ブレーキ・ペダルは右足で

確実なブレーキ操作をするために、右足でブレーキ・ペダルを踏んでください。
慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるおそれがあります。

発 進**1** ブレーキ・ペダルを右足で
しっかり踏んだまま。

チェンジ・レバーを①や②にいれると、クリーブ現象により、アクセル・ペダルを踏まなくても車が動き出します。発進時のレバー操作は、ブレーキ・ペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行ってください。

エンジン始動直後やエアコン作動時などアイドル・アップしているときは、車が動こうとする力がとくに強くなるため、よりしっかりとブレーキ・ペダルを踏んでください。

2 チェンジ・レバーを
前進は①、後退は②にいれる。

レバー操作は、絶対にアクセル・ペダルを踏み込んだまま行ってはいけません。車が急発進し、思わぬ事故の原因につながります。

3 チェンジ・レバーの
位置を目で確認。**4** パーキング(駐車)・
ブレーキをもどす。**5** ブレーキ・ペダルを徐々に
ゆるめ、アクセル・ペダルを
ゆっくり踏み加速。

マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作とアクセル操作を併用して行いますが、オートマチック車では、アクセル操作のみで行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。

急な坂道の発進

チェンジ・レバーの位置を目で確認したら、

- まずアクセル・ペダルをゆっくり踏み、
- 車が動き出す感触を確認してから、
- パーキング(駐車)・ブレーキをもどし発進。

運転のしかた

走行

通常走行

チェンジ・レバーを①のまま走行。

アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速ができます。

急加速

アクセル・ペダルをいっぱい踏み込む。

キックダウンし、急加速できます。

上り坂をなめらかに走るには

上り坂でスピードを保つためにアクセル・ペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がる場合があります。

このようなときは、あらかじめ②にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

走行中は③にしない

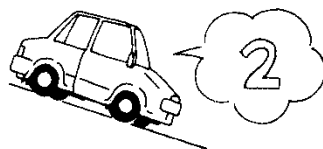
チェンジ・レバーを③にすると、エンジン・ブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因になります。また③で走行しても燃費は変わりません。

下り坂走行

エンジン・ブレーキを併用

下り坂を①のまま走行すると、エンジン・ブレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フット・ブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジン・ブレーキを併用してください。

チェンジ・レバーを②に入れて、エンジン・ブレーキを使います。



オーバードライブ付き車の場合

O/DスイッチをOFFにすることによっても軽いエンジン・ブレーキが得られます。高速道路の長い下り坂などで使うと有効です。

急な下り坂

より強いエンジン・ブレーキが必要な場合は④に入れる。

各シフト位置での速度範囲

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

(単位：km/h)

エンジン型式 シフト位置	1G-FE	4S-Fi	2L-T	3Y-P
L	55	55	40	45
2	95	100	75	85

ブレーキ・ペダルは右足で

確実なブレーキ操作をするために、右足でブレーキ・ペダルを踏んでください。
慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるおそれがあります。

停車

1 ①のままブレーキ・ペダルをしっかりと踏んでおく。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドル・アップし、クリーブ現象が強くなりますので、車が動き出さないように、とくに注意してください。

2 必要に応じてパーキング（駐車）・ブレーキをかける。

急な上り坂での停車はクリーブ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ・ペダルを踏み、しっかりとパーキング（駐車）・ブレーキをかけてください。

停車時間が長くなりそうなときは
チェンジ・レバーをNに入れる。

停車中の空ふかしは禁物

万一、①②以外にはいっていると思わぬ急発進の原因になります。

停車後の再発進

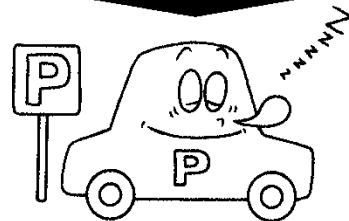
チェンジ・レバーが①の位置にあることをしっかり確認してから、発進してください。

駐車

1 車を完全に止める。

2 ブレーキ・ペダルを踏んだまま、パーキング（駐車）・ブレーキを確実にかける。

3 チェンジ・レバーをPに入れる。



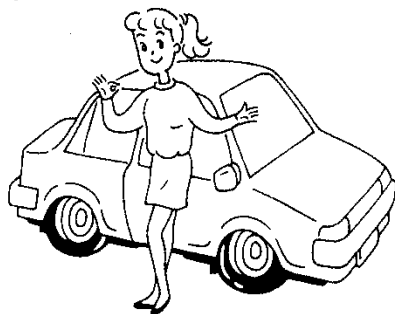
①では車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には、必ずチェンジ・レバーがPの位置にあることを確認してください。

4 エンジンを切る。

車を離れるときは必ずエンジンを切ってください。エンジンをかけたままにしておくと、万一、チェンジ・レバーが①以外にはいていた場合、クリーブ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセル・ペダルを踏み急発進するおそれがあります。

- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキ・ペダルとアクセル・ペダルが確実に踏めるようにしましょう。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどは②にいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはずぐ②にもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどで①から②、①から③と何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキ・ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

- アクセル・ペダルとブレーキ・ペダルを同時に踏んだり、上り坂で①のままアクセルをふかしながら止まってははいけません。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
- 車輪が完全に止まらないうちに、チェンジ・レバーを①にいれるのはやめてください。無理な力がかかり、トランスミッションをいためることがあります。



シフトロックシステムについて

この車にはシフトロックシステムがついています。よく理解して正しい操作にお役立てください。

ブレーキ・ペダルを踏んだ状態でなければPからレバー操作できません。

- エンジン・スイッチが、ACCまたはLOCKのときは、ブレーキ・ペダルを踏んでも操作できません。
- チェンジ・レバー・ボタンを押したままブレーキ・ペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキ・ペダルを踏み操作してください。

P以外ではエンジン・スイッチからキーは抜けません。

- エンジン・スイッチからキーを抜くときは、チェンジ・レバーを①にいれてください。
- (●以外ではキーをACCからLOCKに回させ)ん。

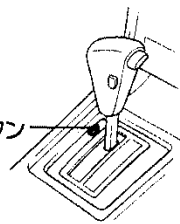
Rにいれるとブザーが鳴ります。

- ブザーが鳴り、●にあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんがご注意ください。

■シフトロック解除ボタン

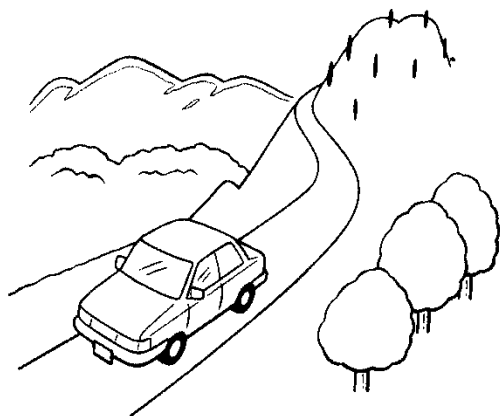
万一、ブレーキ・ペダルを踏んでも①からレバー操作できないときは、ブレーキ・ペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押しながら、レバー操作してください。

シフトロック解除ボタン



必ず知っておきたいドライブ・テクニック

●長い坂道を下るときは



フット・ブレーキと エンジン・ブレーキ*1を併用。

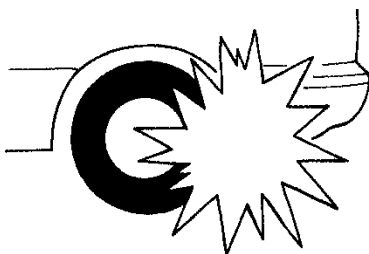
1. フット・ブレーキを踏み続けると「ベーパー・ロック」*2や「フェード現象」*3を起し、ブレーキの効きが悪くなることがあり危険です。
2. ぬれた路面または冰雪路での急激なエンジン・ブレーキの使用はさけてください。スリップの危険があります。

*1 「エンジン・ブレーキ」とは、走行中アクセル・ペダルから足を離したときにかかるブレーキ力。低速ギヤほどエンジン・ブレーキはよく効きます。

*2 「ベーパー・ロック」とは、ブレーキの摩擦熱によりブレーキ液が加熱されて、沸騰し泡が発生し、ブレーキ・ペダルを踏み込んでも、気泡を圧縮するだけで、ブレーキ力とはならない現象。

*3 「フェード」とは、ブレーキの摩擦面が、加熱されると摩擦力が減るので、同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象。

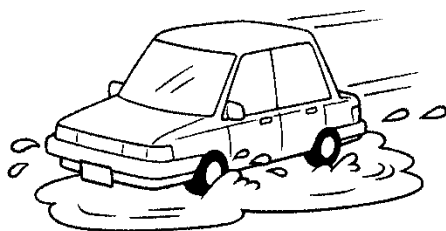
●高速走行中に パンクやバースト(破裂)したときは



ハンドルをしっかりとって、 徐々にブレーキをかけてスピードを 落としてください。

急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ危険です。

●洗車後や水たまりを 走行したあとは



ブレーキ・ペダルを軽く踏んで 効き具合を確認してください。

洗車後あるいは水たまり走行後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキ・ペダルを軽く踏んで、ブレーキの湿りをかわかしてください。

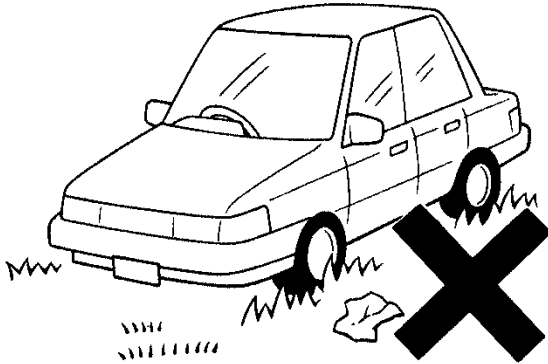
必読！

駐停車時の

Check Point

必ず確認「可燃物なし」

枯れ草、わら、紙、布、樹脂、油、古タイヤなど要注意。



ちよつと言

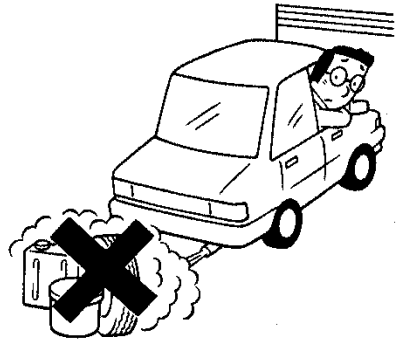
1. 走行後の排気管は高い温度になりますので、燃えやすいものが近くにあると着火する危険があります。
2. エンジンを空ふかししたり、高回転を長く続けたりした場合には、排気ガスが燃えやすいものに当たり着火する危険があります。

仮眠するときには？

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にチェンジレバーを動かしたりアクセル・ペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあり危険です。

車庫内停車は後方確認を第一に。



あらかじめ、燃えやすいものがないことを確かめてから停車してください。



ちよつと言

1. 排気ガスは、場合によっては高い温度になるので、万一の場合わらなど燃えやすいものに着火するおそれがあります。
2. 木材、ベニヤ板などが車両後方にある場合は、車両後端を30cm以上離して止めてください。
すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、万一の場合着火する危険があります。

必ずエンジンを始動させて！

坂道などで車をちよつと動かすときにも必ずエンジンを始動させてください。

エンジン停止時は

- ブレーキ・ペダルが重く、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。
- パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が作用しないため、ハンドル操作が非常に重くなります。

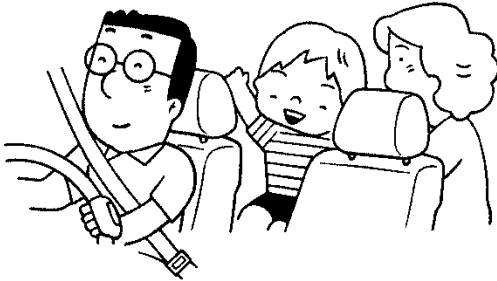
お子さまを乗せるときの

Check Point

お子さま専用席は？

なるべく大人と一緒にリヤ・シート。

フロント・シートだと万一のとき放り出される心配があります。

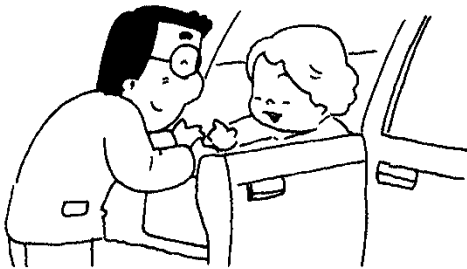


助手席ではお子さまの動作が気になり、安全運転のさまたげになります。

お子さまが、運転装置、装備などにさわると思いがけない事故が起きるおそれがあります。

車から離れるときは？

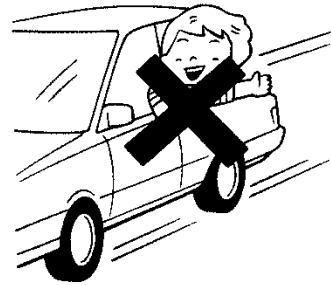
お子さまは必ず一緒に連れて出る。



お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの事故が起きるおそれがあります。また炎天下での車内はたいへん高温となり危険です。

危険です。迷惑です。

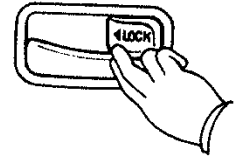
窓から、手や顔などを出させない。



開閉、確認大人の仕事！

ドアは確実に閉じ、必ず施錠。

お子さまをリヤ・シートに乗せるときはチャイルド・プロテクターをご使用ください。⇨25ページを参照してください。



ドア、ウインドウの開閉は必ず大人がしましょう。



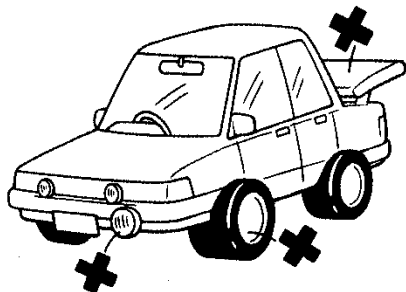
お子さまが手などをはさむ場合があります、危険です。また、パワー・ウインドウのスイッチは必ず大人が操作してください。お子さまがパワー・ウインドウ・スイッチをいたずらして、手や首をはさむと危険です。お子さまを乗せるときは必ずウインドウ・ロック・スイッチ(28ページ参照)をご使用ください。

お車をダメにしないための

Check Point

触れないで！

走行装置など重要個所の改造はしない。



車の性能や機能に適しない部品を装着すると、思いがけない事故が発生する場合があります。



トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると違反になることがあります。アクセサリを取りつけるとき「ちょっと一言」は、トヨタ販売店にご相談ください。

ウインドウ・ガラスなどには アクセサリを取りつけないで。

安全運転のきまつげになるとともに、アクセサリの吸盤がレンズの働きをして、火災など思わぬ事故の原因となります。

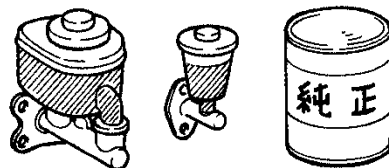
自己流のエンジン調整、電装品の取り付け、部品の取りはずしは行わない。

エンジン調整、電装品の取り付けなどはトヨタ販売店におまかせください。

電装品の間違った取り付けは、故障や火災など思わぬ事故の原因になります。

愛車はいつも 健康ですか？

こんなときはトヨタ販売店で
点検を受けてください。



1. いつもと違うおかしい音や臭いがするとき。
2. ブレーキ液、クラッチ液が不足しているとき。
3. 駐車してあった地面に油が漏れたあとが残っているとき。

タイヤ、ディスク・ホイールを交換するときは。

1. トヨタ販売店で相談してください。
2. 異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは車の安全走行に悪影響をおよぼしますので絶対にさけてください。

無線装置を取りつけるときは。

1. トヨタ販売店で相談してください。
2. 取り付け方法が適切でない場合、電子制御部品に悪影響をおよぼすことがあります。

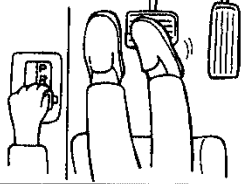
続けないで！

パワー・ステアリング(ハンドル操作力軽減装置)はハンドルをいっぱいに戻した状態を長く続けないでください。

オイルの潤滑不良を起こし、パワー・ステアリング・ポンプを損傷するおそれがあります。

おっと危ない気をつけて！

- 発進時オートマチック車のシフト・チェンジは必ずブレーキを踏んだまま！！

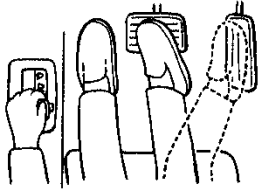


ちよっと一言

エンジン回転が高いとき(始動直後、エアコン作動時)は、ブレーキ・ペダルを十分に踏んでいないと車が動き出すことがあります。

シフト位置を確かめ、まわりの安全を確認してから発進します。

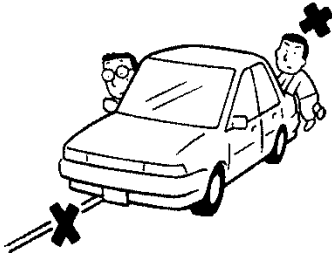
- ブレーキ操作は必ず



右足で行ってください。

右足をアクセル・ペダルにのせたまま、左足でブレーキ操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの摩耗を早めるおそれがあります。

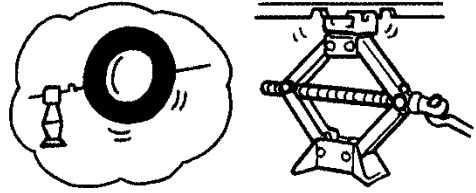
- バッテリーあがりのとき



車を押したり、けん引したりしてエンジン始動をしないでください。

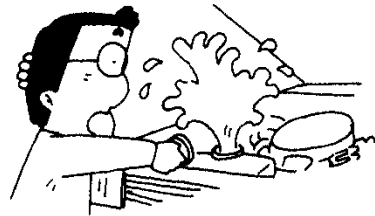
触媒装置の温度が異常に高くなり焼損するおそれがあります。⇨82ページの「バッテリーあがりの処置」を参照してください。

- ジャッキを使用するときは正しい位置にセットしてください。



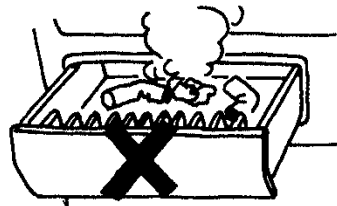
またパーキング(駐車)・ブレーキ、輪止め(搭載工具に含まれています)を忘れないようにしてください。⇨74ページの「ジャッキ」を参照してください。

- ラジエーター・キャップが熱いときはささないでください。



蒸気や熱湯が吹き出し、危険です。

- 灰皿を使用したあとは必ず閉めてください。



開けたままにしておくと、タバコの火が他の吸いながらに燃えひろがり、火災になるおそれがあります。



ちよっと一言

1. マッチ、タバコの火は消してから灰皿の中へ入れてください。
2. 灰皿には吸いながらをためすぎないでください。
3. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものをいれないでください。

ターボ車の取り扱いCheck Point

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

定期的なオイル交換はターボ車の絶対条件!

- エンジン・オイルは必ず5,000kmごとに交換(けがどし6カ月をこえないこと)してください。



- オイル・フィルターは必ず10,000kmごとに交換してください。



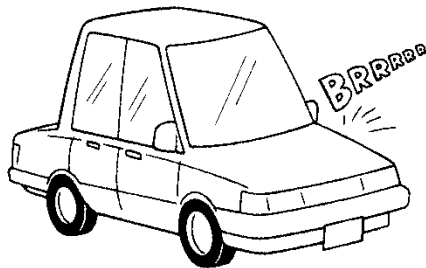
ちよつと一言

ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンから、より大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。毎分10万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジン・オイルによってなされています。したがって、定められたエンジン・オイル、オイル・フィルター交換をお守りいただかないと、劣化したエンジン・オイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。

- エンジン・オイルはAPI基準CD相当で粘度分類10W-30以上のオイルを使用してください。

トヨタ純生キャッスル・ディーゼルオイルニュースペシャルⅡ<CD>をおすすめします。
詳しくは「整備手帳」をご覧ください。

高速走行・登坂走行直後エンジンを止めないで!

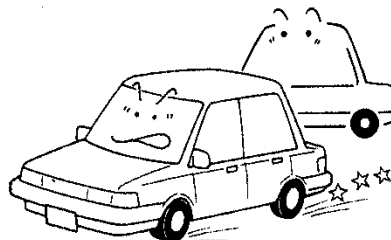


高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、下表にしたがって必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してください。

エンジン停止前のアイドル運転時間

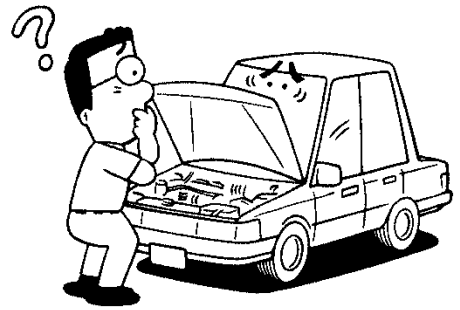
運 転 状 況	アイドル運転時間	
市街地、郊外などの一般走行	必要なし	
高速走行	約80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブ・ウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行	約2分	

エンジンが冷えているときの空ぶかし・急加速は絶対ダメ!



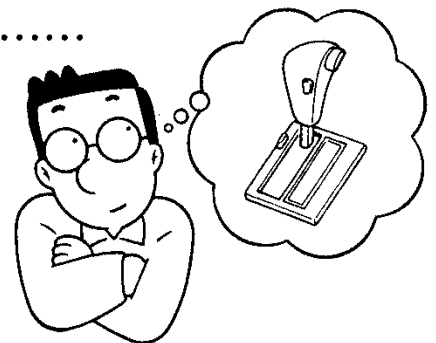
- マフラーなどには指定以外の部品を使わないでください。

こんなときは.....



- 走行中エンジンが止まったときは.....84
- バッテリーがあがったときは.....86
- オーバーヒートしたときは.....86
- 警告灯が点灯したときは.....54
- ランプ類が点灯しないときは(ヒューズ切れ、電球切れ).....88, 91
- 踏切内で動けなくなったときは.....84
- 故障したときは.....84
- 発炎筒を使うときは.....85
- 床下に強い衝撃を受けたときは.....84
- パンクしたときは.....79
- けん引するとき、してもらうときは.....87
- タイヤ・チェーンをつけるときは.....101
- 事故・故障のときの修理連絡先は.....「整備手帳」参照

こんな装備のお車に乗られているかたは.....



- オートマチック・トランスミッション車に乗られているかたは.....45
- LPG車に乗られているかたは.....103